

一人暮らし高齢者に関する意識調査結果

[概要版]

平成 27 年

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

1 調査の目的

65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は、男女とも顕著である。一人暮らし高齢者の増加に伴い、一人暮らし高齢者の安全安心の確保、孤立化の防止、地域活動の活性化によるコミュニティの再構築を促進する必要がある。このため、本調査研究では、一人暮らし高齢者の生活上の心配ごとや困りごと等を始めとした意識、ニーズおよび地域における世代を超えた支え合いの現状について把握、分析するとともに、今後の施策推進の基礎資料とする。

2 調査の概要

(1) 調査対象者

全国の65歳以上の一人暮らし男女

(2) 調査方法

調査員による個別面接聴取法

(3) 調査事項

1. 幸福感、不安に関する事項 (Q1～Q3)
2. 人とのつきあいに関する事項 (Q4～Q6)
3. 商品の購入・振り込め詐欺・経済的な暮らし向きに関する事項 (Q7～Q9)
4. 外出・通院に関する事項 (Q10, Q11)
5. 将来の準備に関する事項 (Q12～Q17)
6. 楽しみに関する事項 (Q18)

(4) 調査実施期間

平成26年12月4日(木)～12月14日(日)

(5) 標本抽出方法

層化二段無作為抽出法

(6) 標本数及び有効回収数

ア. 標本数 2,624人

(当初標本数は3,000人であったが、実際に訪問したところ、対象者が子供と同居しているなど、本調査の対象に該当しないことが判明した者は376人であったため、実際の調査標本数は2,624人となる)

イ. 有効回収数(率) 1,480人(56.4%)

ウ. 調査不能数(率) 1,144人(43.6%)

エ. 不能内訳	転居	210人	長期不在	79人
	一時不在	313人	住所不明	50人
	拒否	405人	その他	87人

(7) 調査委託機関

一般社団法人 新情報センター

(8) 調査の協力者

本調査は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）の委託研究の一環として、一般社団法人 新情報センターが以下の学識経験者の協力を得て実施した。

- ・ 香山 リカ （精神科医、立教大学現代心理学部映像身体学科教授）
- ・ 佐藤 博樹 （中央大学大学院戦略経営研究科教授）
- ・ 澤岡 詩野 （公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）
- ・ 藤森 克彦 （みずほ情報総研株式会社社会保障・藤森クラスター主席研究員）

（五十音順、敬称略）

3 調査対象者の基本属性

(1) 性別・年齢層構成

総 数	性 別		年 齢 別			
	男性	女性	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
1,480	489	991	347	388	353	392
100.0%	33.0%	67.0%	23.4%	26.2%	23.9%	26.5%

(2) 配偶者の有無

総 数	未 婚	既婚(配偶者と 離別)	既婚(配偶者と 死別)	既婚(配偶者あ り)
1,480	230	306	913	31
100.0%	15.5%	20.7%	61.7%	2.1%

(3) 一人暮らしになった年齢

総 数	19歳 以前	20代 から	30代 から	40代 から	50代 から	60代 から	70代 から	80歳 以降	無回答
1,480	58	48	83	149	266	456	335	85	-
100.0%	3.9%	3.2%	5.6%	10.1%	18.0%	30.8%	22.6%	5.7%	-

4 調査結果の概要

(幸福感、不安に関する事項)

(1) 幸福度 (Q 1)

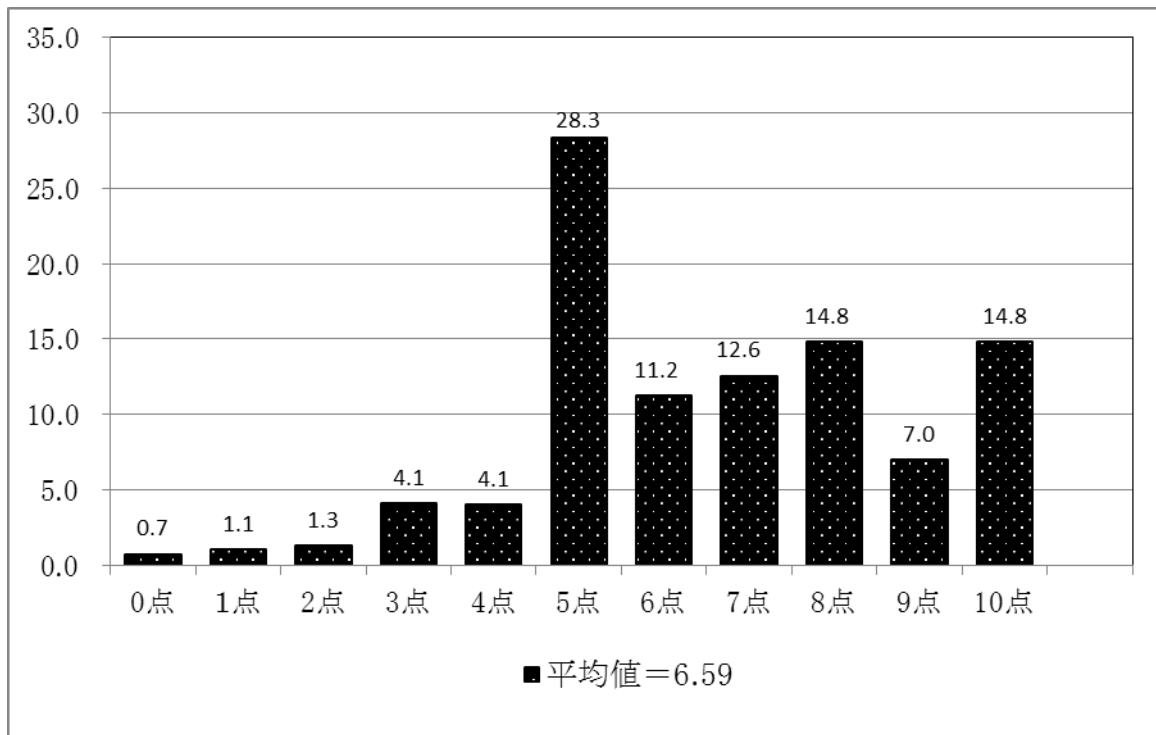
Q 1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。この中から1つだけお答えください。

とても不幸											とても幸せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点	

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、現在どの程度幸せだと思うか聞いたところ、平均値は「6.59」となっている。

結果をみると、5点を選じた者が28.3%と最も多く、次いで8点と10点が14.8%となっている。一方で、0点の者も0.7%となっている。

幸福度 (Q 1)



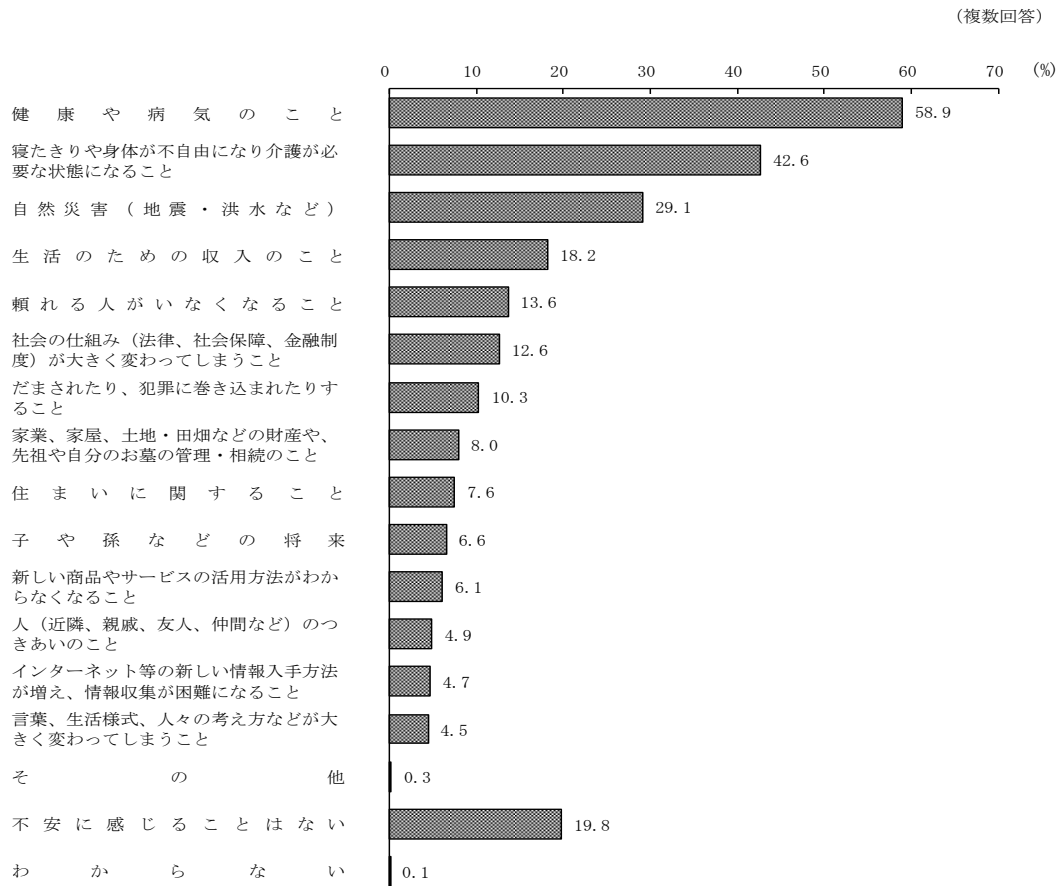
(2) 日常生活の不安 (Q3)

Q3 あなたは、自分の日常生活全般についてどのような不安を感じますか。この中からいくつでもあげてください。

- (ア) 健康や病気のこと
- (イ) 寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること
- (ウ) 頼れる人がいなくなること
- (エ) 生活のための収入のこと
- (オ) 家業、家屋、土地・田畑などの財産や、先祖や自分のお墓の管理・相続のこと
- (カ) 住まいに関すること
- (キ) 人（近隣、親戚、友人、仲間など）のつきあいのこと
- (ク) 子や孫などの将来
- (コ) だまされたり、犯罪に巻き込まれたりすること
- (サ) 新しい商品やサービスの活用方法がわからなくなること
- (シ) インターネット等の新しい情報入手方法が増え、情報収集が困難になること
- (ス) 言葉、生活様式、人々の考え方などが大きく変わってしまうこと
- (セ) 自然災害（地震・洪水など）
- その他（ ）
- (ソ) 不安に感じることはない
わからない

自分の日常生活全般について、どのような不安を感じるか聞いたところ、「健康や病気のこと」を挙げた者の割合が58.9%と最も高く、以下、「寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」（42.6%）、「自然災害（地震・洪水など）」（29.1%）、「生活のための収入のこと」（18.2%）などの順となっている。一方で、「不安に感じることはない」と答えた者は19.8%となっている（複数回答）。

日常生活の不安 (Q3)



(人とのつきあいに関する事項)

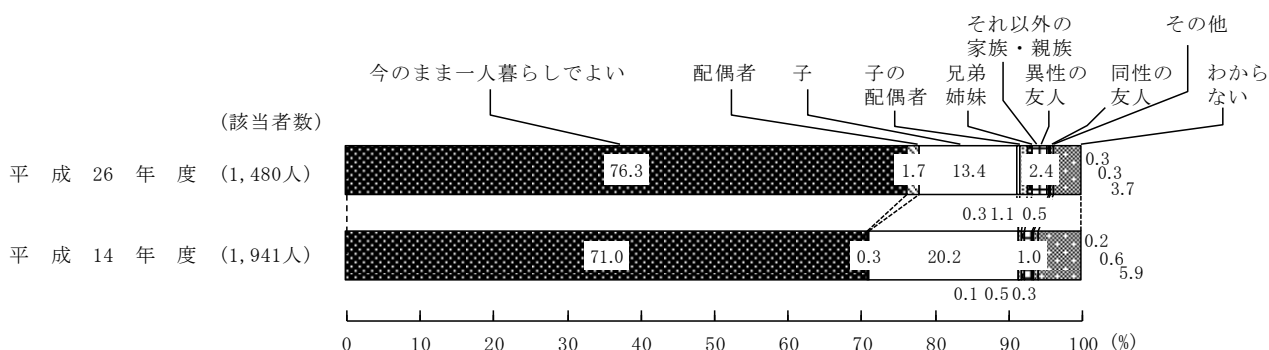
(3) 今後の同居の意向 (Q4)

Q4 あなたは、今後どなたかと一緒に暮らしたいと考えていますか。この中から1つだけお答えください。

(ア) 今のまま一人暮らしでよい	(カ) それ以外の家族・親族
(イ) 配偶者	(キ) 異性の友人
(ウ) 子	(ク) 同性の友人
(エ) 子の配偶者	その他 ()
(オ) 兄弟姉妹	わからない

今後どなたかと一緒に暮らしたいと考えているか聞いたところ、「今のまま一人暮らしでよい」と答えた者の割合が76.3%と最も多く、次いで「子」13.4%、「異性の友人」2.4%、「配偶者」1.7%、「兄弟姉妹」1.1%、「それ以外の家族・親族」0.5%となっている。

今後の同居の意向 (Q4)



(4) 頼りたいと思う相手 (Q5 (1) ~ (10))

Q5 あなたは、次の(1)～(10)の事柄について、あてはまると感じる人はいますか。
(ア)～(コ)からいくつでもあげてください。

- (1) 電球の交換などの日常のちょっとした用事を頼みたい相手
- (2) 病院への付き添いや、送り迎えなどを頼みたい相手
- (3) ふだんの買いものを頼みたい相手
- (4) 病気で何日か寝込んだ時に看病や世話を頼みたい相手
- (5) いざというときにお金の援助を頼みたい相手
- (6) 振り込め詐欺の疑いがあるときに相談したい相手
- (7) 心配ごとや悩み事を相談したい相手
- (8) 健康や介護などについて相談したい相手
- (9) 喜びや悲しみを分かち合う相手
- (10) 一緒にいるとほっとする相手

- (ア) 子(息子、娘)
- (イ) 子の配偶者(婿、嫁)
- (ウ) 親
- (エ) 兄弟姉妹、親戚
- (オ) 友人
- (カ) 近所の人
- (キ) ヘルパーなどの介護サービスの人
- (ク) その他の人
- (ケ) そのことでは頼りたいと思わない
- (コ) 当てはまる人はいない

「(1) 電球の交換などの日常のちょっとした用事を頼みたい相手」から「(10) 一緒にいるとほっとする相手」までの10項目について、頼りたいと思う相手を聞いたところ、「病気で何日か寝込んだ時に看病や世話を頼みたい相手」(69.5%)、「心配ごとや悩み事を相談したい相手」(68.6%)、「健康や介護などについて相談したい相手」(72.9%)、「喜びや悲しみを分かち合う相手」(73.7%)、「一緒にいるとほっとする相手」(70.9%)で、「(誰かしら)頼りたい人がいる」と答えた者の割合が約7割となっている。

頼りたいと思う相手 (Q5)

